

第2回 敦賀市立地適正化計画策定委員会

日時：平成29年2月21日
13時30分～
場所：防災センター 3階
災害対策本部室

目次

1. まちづくりの課題
2. まちづくりの方針（案）
3. 居住誘導区域の設定の考え方（案）
4. 都市機能誘導区域の設定の考え方（案）
5. 策定スケジュールについて

○第2回策定委員会説明内容

立地適正化計画検討の流れ

立地適正化計画検討の流れ

① 都市の現況調査・分析

② 都市構造上の課題の分析

③ 計画・将来目標の検討、目指すべき都市構造の検討

④ まちづくり（立地適正化計画）の方針の検討

⑤ 誘導区域、誘導施設の検討

⑥ 誘導施策の検討

⑦ 目標値の設定

⑧ 施策の達成状況に関する評価方法の検討

⑨ 立地適正化計画案の作成、計画策定

前回提示資料

今回提示資料

1. まちづくりの課題

○敦賀市におけるまちづくりの課題

◎人口

- 将来的な人口減少傾向、特に生産年齢人口の減少傾向が懸念されることから、今の都市サービス水準を確保するためには、一定のエリア（市街地部）において現状の人口密度水準を確保することが必要である。
- 将来の都市の活力を維持していくうえでも、子育て世代を中心とした若年層の増加を図る必要がある、子育て世代が住みよいまちづくり・環境整備を進める必要がある。
- 将来的な高齢者（交通弱者）の増加見込みを踏まえると、利便性の高い都市サービス利用の観点から、現状以上の市街地エリアの拡大を防ぐ必要がある。

◎土地利用・開発動向

- これまで宅地開発や商業施設の立地が郊外に進展し、用途地域外でのスプロール化が進行しており、将来的なインフラの整備・維持管理への負担増大が懸念される。
- 国道27号により市街地が分断されたような都市構造であり、北側と南側で市街地が二極化している傾向が見られ、それぞれのエリアでの機能集約が求められる。
- 旧市街地で空家が増加しており、市街地の空洞化に拍車をかけていることから、空家の利活用を進めることが必要である。

○敦賀市におけるまちづくりの課題

◎公共交通

- コミュニティバスを中心とした公共交通網が充実している現状が、市民の都市生活を支えており、現在のサービス水準を維持することが必要である。
- 持続可能な公共交通システムとするため、ネットワーク+ハブ化などの効率的で利便性の高いコミュニティバス網の構築が必要である。

◎災害対策

- 市街地の外縁部に土砂災害特別警戒区域が指定されており、防災対策について検討する必要がある。
- 市街地の大部分が笙の川の浸水想定区域にかかっており、防災対策や居住誘導のあり方について検討をする必要がある。

◎都市施設立地状況

- 商業、教育、医療、児童福祉、高齢者福祉施設の立地状況をみると、現状では用途地域内にその多くが立地しており、居住誘導や都市機能の集約化を進めて行く上で、将来的にも現行サービス水準の確保が求められる。
- 教育施設や福祉施設の中には老朽化しているものがあり、将来的に更新、統廃合を検討していく必要がある。

2. まちづくりの方針（案）

●まちづくりの方針（案）

◎集約型のまちづくりに向けた基本的な方向性

まちづくりの将来像

多様な世代・交流がめぐりあう 港まち敦賀

敦賀港や敦賀駅などを通じて、過去・現在にわたり様々な交流が生まれる本市において、これら都市拠点を中心として未来も多様な交流により賑わいがあふれる都市を目指すとともに、都市機能や日常サービス機能を集約し、暮らしやすく利便性の高い環境を創出することで、子育て世代を中心とした活力を生み出し、こどもから高齢者まで安心して暮らし続けることができる持続可能な都市づくりを進める。

基本方針（ターゲット）

- 👉 子育て世代・高齢者世代が安心して暮らせるまちづくり
- 👉 多様な交流が生まれ、共存できるまちづくり
- 👉 持続可能なまとまりあるまちづくり

●まちづくりの方針（案）

◎まちづくりの方針（ターゲット）

基本方針①

👉子育て世代・高齢者世代が安心して暮らせるまちづくり

- **社会経済活動の核となる生産年齢人口の増加を目指し、若年層を中心とした多世代交流型の市街地形成と定住を促す都市の魅力を創出する**
- **日常生活や公共交通の利便性の高いまちなかへ居住を誘導するとともに、まちなかの既存ストックの活用による多様なライフスタイルを支える居住基盤・都市基盤整備を進め、暮らしやすい環境を創出する**
- **歩いて暮らせるヒューマンスケールのまちづくりと多世代の顔が見えるコミュニティの構築による、誰もが安心して暮らせる都市空間を形成する**

●まちづくりの方針（案）

◎まちづくりの方針（ターゲット）

基本方針②

👉 多様な交流が生まれ、共存できるまちづくり

- 公共交通ネットワークを構築・維持することで、都市内の交流を高めるとともに、利便性の高い一体的な都市構造を構築する
- 関東圏・関西圏・中部圏などからの来訪者の玄関口となる敦賀駅、国内・世界とつながる敦賀港など広域的交流拠点を有する本市の特徴を活かした魅力ある交流機能を強化し、多様な交流の促進による賑わいある都市を形成する

●まちづくりの方針（案）

◎まちづくりの方針（ターゲット）

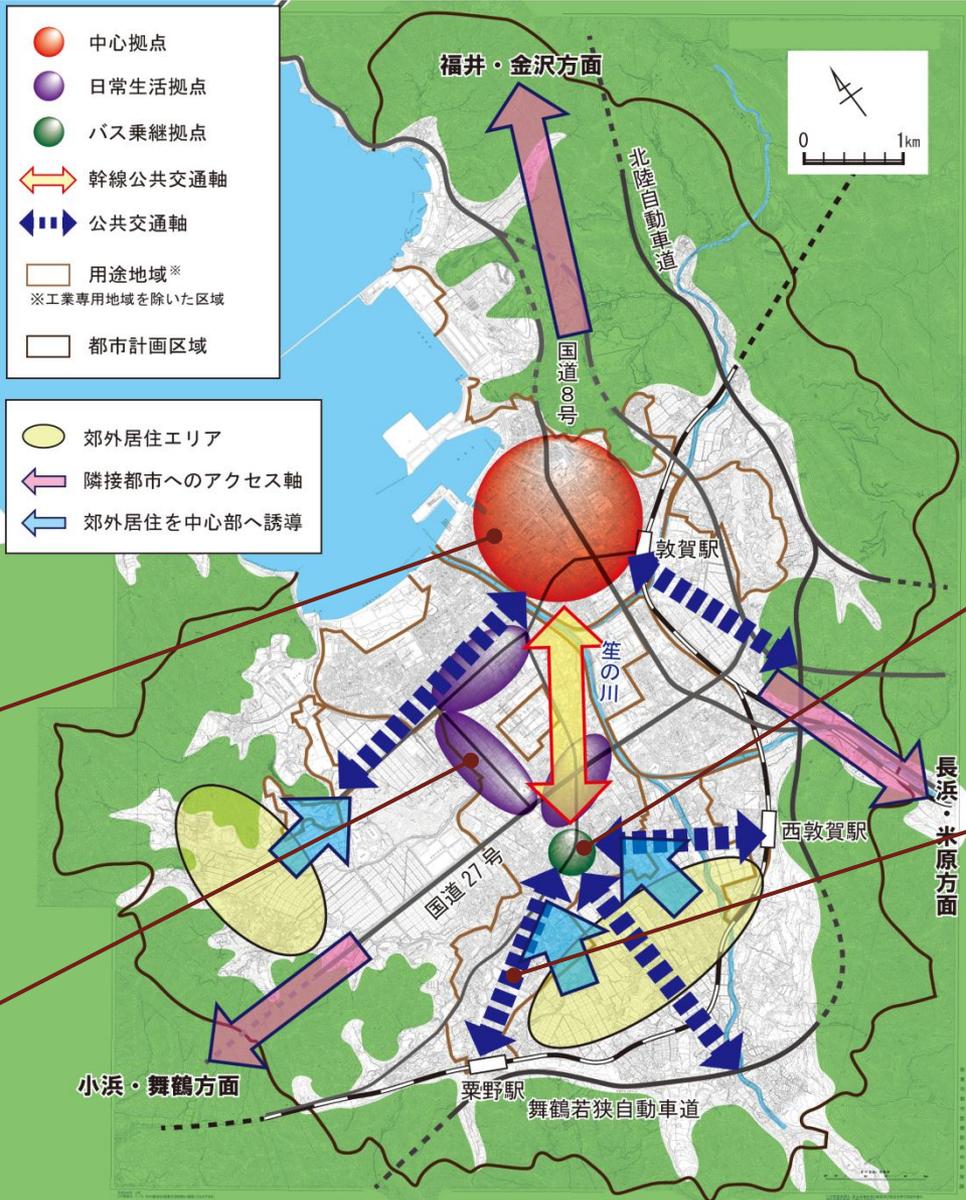
基本方針③

➡ 持続可能なまとまりあるまちづくり

- 現状の都市生活サービス水準の確保に向け、市街地の人口密度を現状維持させるため、用途地域を中心としたまちなかにできるだけ居住を誘導する
- 将来的な財政事情と公共施設の効率的な維持管理、利便性の高い都市生活サービス提供の観点から、現在の用途地域の内側に市街地のエリアを設定（市街地拡大の抑制）することで必要な都市機能の集約化を図り、持続可能な都市構造を形成する

●まちづくりの方針（案）

◎敦賀市の都市構造と将来目指すべき姿（案）



➤ 敦賀駅や敦賀港を中心とした旧市街地を中心拠点として位置づけ

➤ 市役所周辺や木崎通り、野神周辺の新市街地を日常生活拠点として位置づけ

➤ バス乗継拠点を設けて、中心拠点を公共交通軸でネットワーク

➤ 中心拠点やバス乗継拠点と郊外部を公共交通軸でネットワーク